



平成 20 年 1 月
日 本 学 士 院

日本学士院会員候補者推薦要項

日本学士院は、日本学士院会員選定規則第 2 条の規定により、平成 19 年 12 月 12 日開催の第 1014 回総会において、下記により日本学士院会員の補充を行うことを決定しました。会員候補者を推薦される場合には、「日本学士院会員選定規則（抄）」及び「日本学士院会員選定規則第 3 条の運用に関する申し合わせ（抄）」並びに「日本学士院会員分科別一覧」を参照の上、必要書類を取り揃え、期間内に本院に御提出ください。

記

1. 各部、各分科において補充すべき会員の数

第 1 部（人文科学部門）

第 1 分科（文学・史学・哲学）	3 名以内
第 2 分科（法律学・政治学）	3 名以内
第 3 分科（経済学・商学）	3 名以内

第 2 部（自然科学部門）

第 4 分科（理学）	1 名以内
第 5 分科（工学）	1 名以内
第 7 分科（医学・薬学・歯学）	2 名以内

計 13 名以内

第 6 分科は欠員が無いため本年は補充を行いません。

2. 書類の提出期間

平成 20 年 1 月 15 日から 2 月 29 日まで（消印有効）

3. 書類の送付先及び問い合わせ先

日本学士院庶務係

〒110-0007 東京都台東区上野公園 7 - 3 2

電話：03-3822-2101（直通）

4. 必要書類（正副 2 通、1 通はコピー可、A4 判）

（1）推薦書（別紙様式）

（2）履歴（学歴、職歴、賞罰等について概要を記載する。）

（3）主要な学術上の業績（その大要を記載する。）

（4）主要な著書及び論文の目録（簡単な解説を附する。）

5 . 選考結果の通知

平成 2 0 年 1 2 月中頃に、推薦者に通知します。

6 . 留意事項

- (1) 選考は、提出された書類に基づき行われます。選考に当って情報が不足する場合には、再度書類の提出を依頼する場合がありますので、書類は締切に余裕を持って提出願います。
- (2) 日本学術会議会員ごとに 1 名を推薦することができます。
- (3) 別紙の「履歴」、「主要な学術上の業績」、「主要な著書及び論文の目録」の様式は任意です。
- (4) 別紙の「履歴」には、元号（西暦）年及び月を入れ、現職がある場合には（現在に至る）を記入願います。
- (5) 別紙の「主要な著書及び論文の目録」には、簡単な解説を附することとなっています。文献 1 つずつに附していただくか、若しくは全体にまとめて附していただくか、いずれでも結構です。

7 . その他

日本学士院の詳細につきましては、同封の「日本学士院パンフレット」又は「日本学士院ホームページ（<http://www.japan-acad.go.jp/>）」を御覧ください。

なお、推薦書の様式については、本院のホームページ上からダウンロードすることができます。

日本学士院会員候補者推薦書

1. 被推薦者 (氏 名)

1. 本 籍 (都道府県名のみ記す。)

1. 住 所 〒

1. 生 年 月 日

1. 現職 (若しくは最終の職)

1. 専攻学科目

1. 所属すべき分科の指定

右何 某 氏を学術上功績顕著な科学者と認め日本学士院会員候補者に推薦します。

平成 年 月 日

推 薦 者

日本学術会議会員 (第 部所属)

氏 名 自 署

住 所

日本学士院長 久 保 正 彰 殿

日本学士院会員候補者推薦書

1. 被推薦者 上 野 太 郎 （うえの たろう）
1. 本 籍 東京都
1. 住 所 〒 110-〇〇〇〇 東京都台東区上野公園 〇 - 〇 - 〇
1. 生 年 月 日 昭和〇年〇月〇日
1. 現職（若しくは最終の職） 〇〇〇大学教授、〇〇大学名誉教授
1. 専攻学科目 〇〇学
1. 所属すべき分科の指定 第〇部第〇分科
「日本学士院会員選定規則第3条の運用に関する
申し合わせ（抄）」を参照

右 上野太郎氏を学術上功績顕著な科学者と認め日本学士院会員候補者に推薦します。

平成〇年〇月〇日

推 薦 者

日本学術会議会員（第〇部所属）

氏 名 〇 〇 〇 〇 自署（押印不要）

住 所 〒 110-〇〇〇〇 東京都台東区 〇 - 〇 - 〇

日本学士院長 久 保 正 彰 殿

日 本 学 士 院 会 員 選 定 規 則 (抄)

(候補者の推薦)

第 3 条 日本学士院会員候補者の推薦をなし得る者は次のとおりとする。

(1) 学術機関 (大学の各学部及び研究所を含む。) 及び学会 (学術機関及び学会を以下「学術団体」という。)

(2) 日本学士院会員

(3) 日本学術会議会員

2 前項の推薦資格者は、各学術団体又は各個人ごとに候補者 1 名を推薦することができる。

3 日本学士院会員と日本学術会議会員との 2 つの資格を有する者が候補者を推薦する場合には、日本学士院会員の資格をもってこれを行うものとする。

4 日本学士院会員は、その所属する分科の候補者に限り推薦することができる。

5 日本学術会議会員は、その所属する部に相当する分科の候補者に限り推薦することができる。

6 推薦者は、次の事項を記載した推薦書を、日本学士院長に提出しなければならない。

(1)被推薦者の氏名、本籍 (都道府県名のみ記す。) 及び住所

(2)所属すべき分科

(3)履歴 (概要でよい。)

(4)主要な学術上の業績 (その大要を記載する。)

(5)主要な著書及び論文の目録 (簡単な解説を附する。)

7 推薦書は、別記の書式により、推薦者 (学術団体の場合にはその代表者とし、その代表者の団体における地位、役名等を記す。) の署名を必要とする。

8 推薦には本人の承諾を必要としない。但し、本人はこれを辞退することができる。

9 推薦書は、あらかじめ公示された提出期間内に、日本学士院事務室あてに送付しなければならない。

10 郵送による推薦書が期間経過後に到達したときは、郵便官署の日附印により、期間内の発信を確認し得る場合に限り、期間内に提出されたものとみなす。

- 11 推薦書が期間経過後に提出された場合には、これを受理しない。推薦書がいちじるしく要件を欠くときも同様である。
- 12 提出した推薦書に不備があるときは、推薦者はこれを補正しなければならない。
- 13 選考委員会が、補正を条件として推薦書を受理した場合において、委員会の定める期間内に補正しないときは、その受理を無効とする。

(被推薦者)

第4条 推薦される候補者は、学術上功績顕著な科学者でなければならない。その資格の判定は選考委員会の審査による。

日本学士院会員選定規則第3条の運用に関する申し合わせ（抄）

平成17年 9月 5日
運 営 委 員 会 承 認

日本学士院会員選定規則（以下「規則」という。）第3条の運用に関しては、当面下記の要領によるものとする。

2．規則第3条第5項の「所属する部に相当する分科」とは、次の各号に掲げる日本学術会議の部に対して、当該各号に定める日本学士院の分科とする。ただし、推薦者及び被推薦者の専攻学科目を勘案して、各号に抛りがたい場合は、推薦者は別の分科を指定することができる。

- 一 日本学術会議第1部 日本学士院第1部第1分科、第2分科及び第3分科
- 二 日本学術会議第2部 日本学士院第2部第4分科、第6分科及び第7分科
- 三 日本学術会議第3部 日本学士院第2部第4分科及び第5分科

4．本申し合わせは、平成17年10月1日から適用する。

日本学士院第 1 部分科別会員一覧

平成 20 年 1 月現在

	分科別	定員	会員名（専攻学科目）	現員	欠員
第 1 部	第 1 分科 （文学 史学 哲学）	30	久保 正彰（西洋古典学） 荒 松雄（南アジア史） 中根 千枝（社会人類学） 永井 博（哲学・科学哲学） 西田 龍雄（言語学） 秋山 虔（日本文学） 田仲 一成（中国文学） 荒井 献（新約聖書学） 尾藤 正英（日本史） 武田 恒夫（日本絵画史） 斯波 義信（中国史） 吉川 忠夫（中国史） 難波精一郎（心理学） 青柳 正規（美術史学・古典考古学） 辻村 公一（哲学） 築島 裕（国語学） 中川 久定（フランス文学） 山田 晶（西洋中世哲学） 岩崎英二郎（ドイツ語学） 原 實（インド古典学） 源 了圓（日本思想史） 吉田 民人（社会学） 伊藤 貞夫（西洋史学〔古典古代史〕） 上田 閑照（哲学・宗教哲学） 久保田 淳（日本文学） 御牧 克己（インド・パキスタン教学） 玉泉八州男（英文学）	27	3
	第 2 分科 （法律学 政治学）	24	團藤 重光（刑法・刑事訴訟法） 伊藤 正己（英米法・憲法） 三ヶ月 章（民事訴訟法学・裁判法学） 滋賀 秀三（東洋法制史） 河本 一郎（商法・証券取引法） 京極 純一（政治学・政治過程論） 塩野 宏（行政法） 樋口 陽一（憲法学） 石本 泰雄（国際法） 奥田 昌道（民法） 西尾 勝（行政学） 斎藤 眞（アメリカ政治外交史） 細谷 千博（外交史・国際関係論） 加藤 一郎（民法・環境法・医事法） 小田 滋（国際法） 星野 英一（民法） 中野貞一郎（民事手続法） 三宅 一郎（政治学・政治行動論） 村上 淳一（ドイツ法） 三谷太一郎（日本政治外交史） 松尾 浩也（刑事法）	21	3
	第 3 分科 （経済学 商学）	16	大内 力（経済理論・経済政策） 宇澤 弘文（経済学） 小林 昇（経済学史） 宮澤 健一（経済学） 水田 洋（社会思想史） 速水 融（日本経済史・歴史人口学） 貝塚 啓明（財政学・金融論） 館 龍一郎（金融論・財政学） 小宮隆太郎（経済学） 川田 侃（国際経済学・国際関係論） 石川 滋（開発経済論） 根岸 隆（経済理論・経済学史） 伊藤 誠（経済理論・現状分析）	13	3
計		70		61	9

日本学士院第2部分科別会員一覧

平成20年1月現在

	分科別	定員	会員名（専攻学科目）	現員	欠員
第2部	第4分科 （理学）	31	藤田 良雄（天文学） 江崎玲於奈（物理学） 広中 平祐（数学） 古在 由秀（天文学） 長倉 三郎（物理化学） 関 集三（物理化学） 林 忠四郎（理論天体物理学） 山崎 一雄（無機化学） 西島 和彦（理論物理学） 富澤 純一（分子生物学） 伊藤 清（数学） 久城 育夫（岩石学） 向山 光昭（有機合成化学） 大澤 文夫（生物物理学） 横山 泉（火山物理学） 松本 達郎（地質学） 井口 洋夫（物理化学） 上田 誠也（地球物理学） 樋渡 宏一（細胞生物学・遺伝学） 近藤 淳（物理学） 森 重文（数学） 花房秀三郎（細胞生物学・分子腫瘍学） 竹市 雅俊（発生生物学・細胞生物学） 大村 智（天然物有機化学） 小柴 昌俊（物理学） 森本 信男（鉱物学） 山崎 敏光（原子核物理学） 松野 太郎（気象学・地球物理学） 外村 彰（物理学） 柏原 正樹（数学）	30	1
	第5分科 （工学）	17	荒田 吉明（高温工学・溶接工学） 伊藤 英覺（機械工学・流体工学） 西澤 潤一（電子工学・通信工学） 鈴木 弘（機械工学[金属塑性加工学]） 横堀 武夫（材料工学・機械工学） 乾 崇夫（造船学[船型学]） 本多 健一（応用化学） 野崎 一（有機合成化学・有機金属化学） 白川 英樹（物質科学・高分子化学） 藤田 廣志（材料物性工学） 野依 良治（有機化学） 岩崎 俊一（電子通信工学・磁気工学） 岡村 總吾（電子工学・通信工学） 井上 明久（金属材料学） 田中 耕一（質量分析） 堀川 清司（土木工学[海岸工学]）	16	1
	第6分科 （農学）	12	松井 正直（農芸化学） 田村 三郎（生物有機化学） 沢田 敏男（農業土木学） 山田 康之（植物分子細胞生物学） 入谷 明（家畜繁殖学） 和田 光史（土壌学） 四方英四郎（植物病理学・ウイルス学） 稲上 正（分子細胞生理学） 別府 輝彦（応用微生物学） 常脇恒一郎（植物遺伝学） 佐々木恵彦（森林資源科学・樹木生理学） 喜田 宏（獣医微生物学）	12	0
	第7分科 （医学 薬学 歯学）	20	早石 修（生化学・医化学） 杉村 隆（生化学・腫瘍学） 山川 民夫（生化学） 伊藤 正男（生理学） 柴田 承二（天然物化学・生薬学） 岡田 善雄（細胞工学） 豊島久真男（ウイルス学・腫瘍学） 織田 敏次（内科学） 井村 裕夫（内科学） 森 亘（病理学） 大塚 正徳（薬理学） 岸本 忠三（免疫学） 濱 清（解剖学） 石坂 公成（免疫学） 廣川 信隆（分子細胞生物学） 関谷 剛男（薬学・核酸有機化学） 本庶 佑（医化学・分子免疫学） 須田 立雄（歯科基礎医学）	18	2
	計	80		76	4
	定員	150		137	13